

つき訴状〔A〕

おそれながらきつて書付し、御訴訟申上候
乍レ恐以ニ書付ニ御訴訟申上候

上州群馬郡伊香保村

訴訟人

百性

金 大 夫

丹右衛門

五左衛門

直右衛門

権右衛門

弥右衛門

三右衛門

甚左衛門

又左衛門

喜左衛門

小平次

武 大 夫

年番名主

六左衛門

同

治左衛門

相 手

金大夫譜代門屋

同

五 兵 衛

同人譜代門屋

同

勘 助

丹右衛門譜代門屋

同

万右衛門

右伊香保村之儀ハ、古来より百性拾四人ニ相極、御水帳ニも拙者共拾四人ニ而石高所持仕罷在候、尤拙者共井店借り之者を除キ、村中不残門屋ニ紛れ無御座候処、去ル比、門屋共之内六拾五人徒党連判仕、門屋ニ而ハ無レ之由、都テ廿四ヶ条門屋之惣名為可ニ申潰ス、非道之目安、会田伊右衛門様御役所江御訴申上、依レ之双方被ニ召出、一々御詮儀之上、年来指上候宗門人別帳江誰門屋誰々と相認、門屋共印形取レ之差上置候ニ付、不残門屋ニ紛レ無レ之由、御裁許被レ為ニ仰付候、勿論門屋之内ニも輕重御座候而、譜代と申筋目ハ拙者共先祖召仕・家来・譜代方門屋江出シ、其者方代々無レ恙相続仕候者ハ、もうすにおよばす不ニ申及、并養子・入聲、或ハ後家入等謂有レ之、譜代相続仕来り候分ハ譜代門屋と書記し、且又、右譜代之者断絶以来、門屋ニ差置候者之分ハ、所大並之門屋と計仕、則六拾五人一味之者共、此度譜代・大並相改、帳面ニ認、印形取置申候、然所、右六拾五人之内、金大夫譜代門屋五兵衛彦人相残り、譜代門屋之印形未難渋仕候、六拾五人之外丹右衛門譜代門屋万右衛門・金大夫譜代門屋勘助、以上三人譜代之儀今以相争、当月廿三日、会田伊右衛門様御役所江被ニ召出、拙者共と対決之上、双方共口書指上申候処、今度当御役所様江御引渡ニ罷成候ニ付、拙者共奉ニ願上候ハ、右出入ニ付、久々在江戸、困窮難儀仕候、依レ之早速之儀ニハ御座候へ共、双方御当地ニ罷在候へ者、此砌何とぞ御慈悲を以、右三人之者被レ為ニ召出、御吟味之上御裁許被レ為ニ仰付被ニ下置候ハ、難有可レ奉存候、以上

伊香保村

十四人代

享保五年子七月

金 大 夫

丹右衛門

又左衛門

小 平 次

年番名主
六左衛門

遠藤七左衛門様

御役所

譜代門屋出入